

## 平成26年度 学校総合評価

### 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の生徒は礼儀正しく意欲を持って何事にも真面目に取り組む反面、自主性、主体性に乏しい傾向が見られる。したがって、生徒自らが自己の能力・適性等を正しく評価し、自ら設定した高い目標に向け、意欲的に取り組むことが求められている。

それを踏まえて、今年度の重点課題として「家庭学習の充実と授業参加への充実」、「基本的生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上」、「一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の系統的な指導の充実」、「学校行事への意欲的な取り組みと読書による広範な教養の習得」、「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、Aが4項目、Bが2項目、Cが4項目であった。特に評価Cの[進路意識向上の充実]においては、スケジュール帳等を利用して生徒自身が、自主的・意欲的に学習に取り組めるよう更なる働きかけが必要である。また、[家庭学習時間の充実]や[読書習慣の習得]においても、保護者や学校評議員の意見を取り入れ、今後とも改善を図っていく必要がある。また理数科学科・人文社会科学科での[課題発見力・論理的思考力の育成]においては、これまでの4年間の取り組みを検証し、科学的思考力を育成するためのスキルやメソッド等を改善し、これまで以上に教師間の連携を図り、より組織的に実践する必要がある。

### 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校経営計画とその評価を踏まえ、次年度も、「一人ひとりの生徒が自ら学び、考え、行動する力を培い、科学的思考力や探究力などより確かな学力と、より高い目標に向け主体的に進路選択する能力や態度を身につける」ことができるように実践研究や授業改善等を図る必要がある。

特に[授業参加の充実]については、各教科・科目において協調学習やピア・インストラクションなどのアクティブラーニング型授業の実践研究を進め、伝統的な「教える」授業から生徒が能動的に「学ぶ」授業へのさらなる転換が必要である。

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習の充実と授業参加への充実	
現 状	<p>1 1、2年生において、平日3時間の学習時間を確保するような生活習慣を確立できていない生徒が見られる。また予習に比べて復習にかかる時間が確保されておらず、学習事項の定着に不十分な面が見られる。テストの見直しも含め、復習することの重要性を認識させていく必要がある。</p> <p>2 これまでの講義形式の授業では、個々の生徒が受け身的になる傾向がある。教師と生徒の間だけでなく、生徒と生徒の間においての話し合い・聴き合うなどの「学び合い」のを通し、より主体的な学びを実践する必要がある。</p>	
達成目標	[1][家庭学習の充実]	[2][授業参加の充実]
	<p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間未満の生徒の割合 10%未満</li> <li>・平日3時間以上の生徒の割合 70%以上</li> </ul> <p>②1年3教科、2年5教科について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復習を行った生徒の割合 70%以上</li> </ul>	<p>①授業満足度 90%以上</p> <p>②学びあいを行った生徒の割合 60%以上</p>
方 策	<p>1 担任による年間6回以上に及ぶ面接等を通し、望ましい1日の生活パターンを想定させ、生活習慣の見直しや改善を図るよう指導する。</p> <p>2 平日は予習、休日は復習に重点を置き、意欲的に取り組むことができるよう、学年・教科が連携し、課題の与え方や分量等を工夫・改善する。また 考査・テスト実施後は確実に見直しを行うよう学年・教科で指導する。</p> <p>3 公開授業・互見授業等を活用し授業改善を図るとともに、各教科・科目において「学び合い」の授業を計画的に設定する。</p> <p>4 外部講師による研修会を通して、効果的な授業形態を模索し、授業の充実度を高める。</p>	
達成度	<p>① 2時間未満の生徒の割合 3時間以上の生徒の割合</p> <p><b>1年</b> [4月] 16% 42% [9月] 10% 43%</p> <p><b>2年</b> [4月] 15% 45% [9月] 16% 37%</p> <p>②復習を行った生徒の割合</p> <p><b>1年</b> [4月] 英59%数64%国34% [9月] 英61%数74%国33%</p> <p><b>2年</b> [4月] 英41%数57%国26%地歴36%理科34% [9月] 英39%数63%国23%地歴36%理科39%</p>	<p><b>1年</b> [7月]①80.6% ②85.5% [12月]①83.9% ②85.0%</p> <p><b>2年</b> [7月]①81.9% ②90.2% [12月]①82.2% ②85.9%</p> <p><b>3年</b> [7月]①86.4% ②85.7% [12月]①91.4% ②88.1%</p>
具体的な取組状況	<p>1 担任による面接を年6回以上実施し、「学習生活実態調査」の結果をもとに個々の生徒の学習習慣や生活習慣の見直し・改善をアドバイスしている。</p> <p>2 学年集会で「学習パターン」を具体的に提示したり、夏休み・冬休み・春休み直前にはしおりを通して指針を示すなど、時間の自己管理について指導している。</p> <p>3 テストの見直しについては、考査・実力テスト・外部模試の終了時に、担任や教科担任が具体的に指導を行い、復習のための有効な手だてとして活用している。</p> <p>4 アクティブラーニングに関する校内研修を行い、生徒には授業を通して「学び合い」の有効性に気づかせるよう努めた。</p>	
評 価	C	A
	<p>1年生では、9月に学習時間2時間未満の生徒がほぼ目標値に達した。学習時間3時間以上の生徒については、4月から9月において横ばい又は減少という実情であり目標は達成されなかった。復習を行った生徒の割合は、1年生2年生ともに数学の復習をよく行っている様子が伺えるが、全体的には目標値に届いておらず課題が残る。2年生9月において理社の学習時間をしっかり確保している状況は、受験を意識し5教科全体に目を向けている姿勢として評価できる。</p>	<p>授業満足度は、どの学年においても概ね良好である。特に3年の12月の数値からは、生徒が充実感を持ちながら積極的に授業に参加している様子が伺われる。</p> <p>また、「学び合い」の活動も非常に活発に行われており、教師及び生徒の中にその有効性への認識が広まりつつあることを示している。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との面談等を通して、さらに予習・復習・テストの見直しの重要性を認識させてほしい。</li> <li>・様々な工夫や苦勞が感じられるが、目標達成へ向けて、一段と工夫が必要である。</li> <li>・2年生になると、理科・社会へよく取り組んでいる状況が読み取れます。逆に、国語・英語は大丈夫か心配です。</li> <li>・文武両道を目標とし、とてすばらしいと思います。一方部活動については、終了時間を厳守し、メリハリのある部活動が望ましい。</li> <li>・SNSの使い方を含め、時間の使い方を工夫させ、学習時間の確保を望みます。</li> <li>・多くの生徒が授業に満足し、「学び合い」も活発に行われ定着しているようでとても良い。今後さらに充実させてもらいたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「復習」の効用を十分に理解させ、学習内容がしっかりと定着するサイクルを確立させたい。予習の時間との両立を図るために必要な学習時間の確保を目指させたい。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上	
現 状	本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしているが、遅刻や欠席が学年進行とともに増加する傾向にある。 素直で真面目であるが、現実に対応できず悩みを抱えてしまう生徒が多く、高校生活に適応しづらくなっている生徒が増えている。教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、ストレスや悩みの解消に向けて援助する取り組みが必要である。	
達成目標	[1][1日当たりの遅刻者数・欠席者数]	[2][生徒・保護者向け研修会等の充実]
	①年間遅刻者数が各学年1日あたり一人未満 ②各学年の年間欠席者数が、1日あたり一名未満 (ただし、事故や通院等によるやむを得ない理由による遅刻・長期欠席等を除く)	①生徒、教員、保護者を対象とする研修会や講演会・ワークショップを年間5回以上実施する。
方 策	1 欠席や遅刻を繰り返す生徒を早期に見つけ、担任や学年主任が面接等をするともに、保護者と連携し生活習慣の改善を促す等の指導を行なう。 2 生徒に対して適宜講演会を企画するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、心身に問題を抱える生徒を早期に発見し援助するために、生徒指導部と教育支援部や保健厚生部などが連携して、悩みやストレスに対応するためのスキルを学ぶ。	
達成度	① 1日当たりの遅刻者数 1年・・・0.5人、2年・・・0.8人、3年・・・1.0人  ② 1日当たりの欠席者数 1年・・・0.7人、2年・・・1.3人、3年・・・1.8人	・1年生生徒を対象とした研修会4回 (教育支援プログラム・携帯電話等安全教室・エイズ性感染症健康教育・薬物乱用防止教室) ・保護者対象とする講演会2回 (親子の関わり・コミュニケーション能力向上) ・教員対象研修会3回 (ピアサポート×2・コミュニケーション能力向上) 計9回実施
具体的な取組状況	・安易な遅刻・欠席指導については、常々学年主任や主任代理(生徒指導部)、学級担任の先生方の声かけを随時行っている。 ・全校集会での講話の機会を利用してその防止を呼びかけた。 ・各学年の生徒指導部員が各学年の欠席・遅刻を調査し教育支援部員がまとめるという形で、週毎の欠席・遅刻の状況やその理由を把握し、不登校傾向の兆候の早期発見の努力を行っている。 ・怠惰から遅刻を繰り返す生徒については、担任の他、学年主任や指導部員が直接本人と面接し遅刻の原因を考えさせてその防止を促すとともに、保護者にも注意喚起をおこなった。	
評 価	<b>B</b>	<b>A</b>
	・遅刻者数においては、昨年比、1学年では0.1ポイントの減、2学年では0.2ポイントの減、3学年では0.7ポイントの減となり、とりわけ3学年は大きくポイントを減らした。目標数値については、3年生が若干超えたものの、おおむね達成できた。 ・欠席者数においては、昨年比、1学年では0.5ポイントの減、2学年では0.1ポイントの増、3学年では1.3ポイントの減となり、残念ながら1学年以外は目標数値を達成できなかった。ただし、2学年を除いてはポイントを大きく減らしており、減少傾向にあると言え、評価はできる。	・生徒、保護者、教員対象の研修会や講演会を予定した以上に実施することができた。各研修会等では問題・課題に対する心構えや対処の仕方など有益な情報が得られた。
学校関係者の意見	・欠席・遅刻ゼロを目指して生徒が健康な生活を送れるよう、お願いいたします。 ・欠席・遅刻が大変少なく、良いと思います。 ・目先のテストや入試に目が行きがちですが、長いスパンで人生を考える機会も持たせてほしい。 ・生徒への研修会・講演会だけではなく、教職員の研修及び保護者向けの講演会を実施していて充実していると思います。 ・講演の内容が充実していて、大変良かった。	
次年度へ向けての課題	・遅刻指導においては、朝の登校時の交通安全や、朝の学校での効果的な時間の使い方などとあわせて、ゆとりある登校を積極的に促すような形で指導するべきである。 ・欠席については、日ごろの健康管理の大切さを自覚させるとともに、普段の生徒観察を通して不登校傾向をいち早く察知しフォローできるような心がけることが肝要である。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援		
重点課題	一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の系統的な指導の充実		
現 状	1 具体的な進路目標の決定が遅く、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。 2 個々の生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、必ずしも生徒自らが自己の適性や能力を真剣に考えて進路目標を定めているとは言えず、自己を過大あるいは過小に評価したまま漠然とした進路目標の設定に終始してしまう生徒も見受けられる。		
達成目標	①[進路意識向上の充実]	②[意欲的学習態度の育成]	
	スケジュール帳を活用し、自ら学習の指針を立て、週ごとに自己評価を重ねることで、2月までに進路意識が向上した1・2年生徒の割合80%以上	2年次2月までに志望する学部・学科、あるいは大学を決定している生徒の割合80%以上	
方 策	1 スケジュール帳を積極的に活用させ、社会人や大学生を招いてのキャリア講座等を実施し、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつくよう指導する。 2 各学年において、生徒の実態にあった進路指導の方針を明確にし、早期の進路目標決定の必要性について周知徹底を図るとともに、担任等による面接指導を徹底し、個々の生徒に適合した目標の設定やその実現に向けた助言など、的確な指導に努める。 3 進路指導部と総務部が連携し、生徒・保護者を対象とする講演会を計画的に実施する。		
達成度	「スケジュール帳活用に関するアンケート調査(1・2年2月末)」 (1年 男子120名、女子137名 計257名が回答 回答率91.8%) (2年 男子116名、女子152名 計268名が回答 回答率95.7%) ・スケジュール帳を活用し、2月までに進路意識が向上した1・2年生徒の割合 41.5% (1年36.2% 男子30.0%、女子41.6%) (2年46.6% 男子34.5%、女子55.9%)	「進路に関するアンケート調査(2年2月末)」 (男子117名、女子152名 計269名が回答 回答率96.1%) ・志望大学または志望学部を決定している生徒の割合 96.7%(男子96.6%、女子96.7%)	
具体的な取組状況	・2年生は1年次3学期末に、1年生は入学当初に配布し、使用目的、使用方法などを配布時に学年集会、HR等で説明 ・生徒との面談時に持参させ、使用状況等を確認し、使用方法等について助言する ・学年集会や進路講演会などの折には筆記用具とともに持参させ、生徒に必要な事柄を記録させる	・2年生を対象にして、以下の講演会を実施 ①進路講演会(6月) 講師：児美川孝一郎氏 (法政大学キャリアデザイン学部教授) ②大学生による進路懇談会(8月) 講師：本校出身の大学生14名 ③進路講演会(10月) 講師：吉川 徹氏 (大阪大学人間科学研究科教授) ④進路講演会(12月) 講師：駿台予備学校職員 ・進路希望調査(6月、9月、12月、1月) ・その他、HRや学年集会・面接等によって進路指導を行なう。	
評 価	C		A
	・学年集会や進路講演会などの折に必要な事柄を記録させることはある程度できたが、日常的な場面での声かけなどが十分ではなかった。 ・学習生活実態調査や各休業中のしおり等との重複が多く、スケジュール帳を使わなくても面接ができてしまい、面談時に持参させ、使用状況等を確認・助言することが徹底できなかった。 ・活用の仕方は生徒一人ひとり異なり、それもよいことである。また、記載項目・内容が多く、すべてを記入して使用することは極めて難しい。 ・スケジュール帳を効果的に活用している生徒は概して成績も向上・安定する傾向が見られる。		・昨年度までは70%後半の決定率であったが、今年度は大幅に伸びた。例年と大きく異なる指導を行ったわけではないが、現2学年は昨年度からスケジュール帳を活用したり、外部大学教員による進路講演会を受講したりしていることも進路意識の向上につながったのかもしれない。 ・2年末で進路希望が全く決まっていない生徒は少ないが、それらの生徒に対する指導や支援、配慮が必要である。
学校関係者の意見	・スケジュール帳の導入は大変良い取り組みだと思います。自分を振り返るよいチャンスであり、計画性を持つ日常生活の指標として活用してほしいと思います。 ・生徒自身が、まだまだ知らない進路や職業等があると思います。できるだけ多くの情報を与えていただきたいと思います。 ・早い時期から目標をもってやっていくことはとても良いことだと思います。 ・進路を決めるという事は、自己管理という意味もあると思います。一人一人きちんと自分と向き合って決めてもらいたいです。		
次年度へ向けての課題	・全学年生徒がスケジュール帳を持つ、完成年度となるため、日々の生活の確認や短期・中長期の目標設定、各種講演会や集会、面談での学習や進路に関する記録として、またその集積として各自の自己の振り返りに役立てられるよう、さらに使い勝手のよいものとするとともに、進路意識向上のための効果的な使用方法について研究を深める。	・早期に志望大学または志望学部を決定させることの意義をさらに理解させるべく、HR等で「学部・学科研究」を深める方策を実施する。 ・外部講師の選定や日程調整など、今後も同窓会やむつみ会との協力を密にし充実した講演等を実施し、さらに「進路講演会」等の内容を充実させる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動の充実と良好な読書習慣の形成	
重点課題	学校行事への意欲的な取り組みと読書による広範な教養の習得	
現 状	<p>学校行事では生徒と教職員が協力して運営しているが、積極的に参加している生徒がいる反面、やや消極的で創造性に欠けた面も見うけられる。本校二大行事である体育大会と文化活動発表会の生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。</p> <p>また読書は豊かな感性や考える力を育てるだけでなく、脳の活性化やストレスの解消にも効果があるといわれているが、昨年度の読書実態調査によると年間12冊(月1冊)以上本を読む1年生の割合が44%、2年生の割合が20%と少ないのが現状である。</p>	
達成目標	[1][体育大会・文化活動発表会への取り組み]	[2][読書習慣の形成]
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の体育大会への協力度・意欲度・満足度 80%以上</li> <li>1・2年生の文化活動発表会への協力度・意欲度・満足度 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間に12冊以上(月1冊以上)本を読む1・2年生生徒の割合 50%以上</li> </ul>
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校二大行事である体育大会と文化活動発表会について             <ol style="list-style-type: none"> <li>協力度 ②意欲度 ③満足度</li> </ol>             の3つの観点でアンケート調査を実施し、次年度に向けて運営上の問題点や内容等を検討する。           </li> <li>月刊図書館・図書館便り(学期2回)・富高図書館(学年末)を発行したり、1・2年に文庫本・新書本の配備を進めたりして、読書に対する興味関心を高める。</li> <li>読書会・教養講座・文化活動発表会展示を図書委員会の活動のもとに行い、読書の意義と楽しさを伝える。</li> <li>教科・学年と連携して広く良書を紹介し生徒の読書意欲を喚起するとともに、授業や探究活動に図書館を役立てる中で、情報源として本を活用する力を育てる。</li> </ol>	
達成度	<p>〈3年生の体育大会に対するアンケート結果〉</p> <p>①協力度 ②意欲度(自主性) ③満足度(創造・協調・自主)</p> <p>93.5% 74.3% 78.2%</p> <p>〈1・2年生の文化活動発表会に対するアンケート結果〉</p> <p>①協力度 ②意欲度 ③満足度</p> <p>1年生 81.0% 80.1% 81.2%</p> <p>2年生 78.9% 75.4% 77.9%</p> <p>全体 80.0% 77.8% 79.6%</p>	<p>〈読書実態調査の結果〉</p> <p>・年間に12冊以上(月1冊以上)本を読む生徒の割合</p> <p>1年:19% 2年:15%</p> <p>(参考)</p> <p>※1 年間8冊以上読む生徒の割合は、1年:41% 2年:31%</p> <p>※2 昨年度までと集計方法が異なるため、昨年度の数値との比較はできない。(昨年度までは1年、2年それぞれ1クラスずつの抽出調査だったが、実態をより正確に反映させるために今年度は全クラス対象の平均調査とした)</p>
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>体育大会については3年生の実行委員を中心に、文化活動発表会については1・2年生の生徒会を中心に企画・運営を行った。行事の日程は接近していたが、分担できたことで生徒会への負担を軽減することができた。</li> <li>実行委員や生徒会役員のリーダー性を高めるため、教師側のサポート体制を工夫した。</li> <li>月刊図書館・図書館だより・富高図書館等の刊行物を定期的に発行し、新刊本・ベストセラーや時事に関する本を紹介した。</li> <li>1学期に教員による教養講座を、2学期にクラスごとの読書会を開き、生徒全員が本に親しむ場を設けた。また、文化活動発表会では図書委員が興味深い本を推薦する展示を行った。</li> <li>1年では文庫本を学級文庫として各クラスに設置し、2年では中央ロッカー付近に新書コーナーを設置するなど、読書意欲を喚起した。また、各教科に必要な本のアンケート調査を行い、学習活動に必要な書籍を完備するよう努めた。</li> <li>新規図書に関しては月刊図書館での案内や、閲覧コーナーにおける新着本の配置を工夫するなど周知した。</li> </ol>	
評 価	B	C
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会の満足度では、昨年度よりやや質の高さを求めたため、80%に到達できなかった。しかし、協力度がかなり高い数値を示しており、実行委員をはじめそれぞれの役割の中で、協調性をもって取り組んだと考えられる。</li> <li>・文化活動発表会では、2年生の数値が80%未満であったが、概ね充実した活動が行えたと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書実態調査は、昨年度まで抽出調査だったが、実態を正確に反映しているとはいえず、今年度は1・2年生全クラスを対象として集計した。そのため見かけ上の数値は低下しているが、実際には昨年度と大きく変わらないと思われる。今後、この調査方法を継続することにより、正確な実態を把握し改善につなげていく必要がある。</li> <li>・達成目標が適切かどうか、実態を踏まえて再検討すべき。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を通して、団結・心のつながり・人生の仲間といった熱い思いを今後も共有してほしいと思います。</li> <li>・体育大会に参加させていただいていますが、生徒諸君の熱い思いが十分伝わってきます。</li> <li>・学習・部活・スマホなど読書の時間を確保するのは大変だと思います。</li> <li>・[読書習慣の形成]の目標としては、一冊も読まない生徒への指導を考えられた方がよいと思います。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事は多くの人数で取り組むため、生徒の意欲に差が出やすいともいえる。個々の役割を細かく設定するなど、全員が達成感を味わえるよう教師側の働きかけにも工夫が必要である。</li> <li>・多読の生徒(最高で一人104冊)がいる一方で、ほとんど本を読まない生徒が1年生で2%、2年生では16%もあり、生徒の読書意欲には幅がある。生涯にわたって本に親しむ習慣を養うためには、「読書の意義の理解」や「読書習慣の確立」が重要である。その方策として、生徒図書委員会を中心とする啓蒙活動、授業や特別活動での教師からの意識的な働きかけの両方を継続していく必要がある。</li> <li>・図書館をより利用しやすくするために様々な工夫やアイデアを取り入れて、生徒の読書意欲の喚起につなげていきたい。今後は、実態に即した読書推進計画を立てて実行することが重要である。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	科学教育の推進	
重点課題	科学的思考力の習得	
現 状	変化の激しいこれからの時代を生き抜くためには、「知識が豊富であること」だけではなく、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、科学的なスキルを活用し解決を図っていく力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。	
達成目標	[1][課題発見力・論理的思考力の育成]	[2][意欲的学習態度の育成]
	※「論理的思考力テスト(1月実施)」 学習確認テストにより「課題発見力」や「論理的思考力」がついた、探究科学科の生徒の割合 80%以上	※「意識(興味・関心・意欲)調査」 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に取り組んだ、探究科学科の生徒の割合 80%以上
方 策	1 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について、授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。 2 単元ごとに自己評価をさせ、自らより高い目標を設定し、主体的に学習に取り組み、高い学力を形成するよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。 3 理数科学科の筑波科学研究、人文社会学科の東京社会研修を、「探究基礎Ⅱ」と効果的に結び付け、探究活動をより深めるよう実施する。 4 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習を1・2年普通科「総合的学習の時間」の指導にも取り入れる。	
達成度	「論理的思考力」を図るテスト(2点×5問)の実施結果 <平均得点率> ①論理の前提と飛躍 31.6%(昨年度38.8%) ②推論の方法 78.5%(昨年度93.4%) ③原因と結果の関係 51.3%(昨年度61.8%) ④反論の方法と主張の補強 72.8%(昨年度55.9%) ⑤情報の整理 28.5%(昨年度30.3%)	「意識(興味・関心・意欲)調査(5段階評価)」の実施結果 <段階5または4の生徒の割合> 6月「論理的思考力を高める学習に興味を持って、自ら進んで取り組んだ。」 ・・・92.4%(昨年度92.6%) 9月「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」 ・・・97.4%(昨年度89.5%)
具体的な取組状況	【探究科学科1年】 4月より、物事や情報を批判的に解釈、思考するパターン(クリティカルシンキング)を学んだ後、新聞に掲載された論説文等を読み、立論方法・内容等について考察し、意見交換を行った。5月には外部講師による「ポスターセッション講座」を受講し、プレゼンテーションの方法について学んだ。 7月より、「地域研究」「立山実習」をテーマとして、班ごとにフィールドワーク(7月)を含む探究的学習活動に取り組んだ。仮説→検証の科学的手法に則って研究の成果をまとめた。 9月の文化活動発表会においてポスターセッションを行い、12月には3校合同発表会で、3校の上級生のポスターセッションを見学した。 10月に「学問への招待(名古屋大学よりアメリカ人講師、独立行政法人物質・材料研究機構より中国人講師)」を実施し、地域の大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。12月より2年次で取り組む課題研究のテーマ設定に向けて取り組んでいる。 1月には校内研修で先行研究の検索方法について学び、3月には各班ごとに大学教官の来校指導によりテーマの設定などについてのアドバイスを受けることになっている。 【探究科学科2年生】 4月より各班の計画に従い、探究活動を行った。 6月に「学問への招待(東北大学よりメキシコ人講師)」を実施し、地域の大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。 7月に理数科学科は筑波科学研修で最先端の研究や施設に触れ、人文社会科学科は東京社会研修を実施し、班別学習などで課題研究に沿った研修・見学を行った。 9月の文化活動発表会においてポスターセッションを行い、12月には3校合同発表会に参加しポスターセッションを行った。 3学期は、これまで行った発表を研究集録へまとめる作業を行い、最終日には発表会を開き、互いに質問や意見交換をする中で内容を深め、探究活動の締めくくりをする予定である。 【普通科1・2年】 1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施した。その結果、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という内容が、かなり増加した。	
評 価	C	A
	「論理的思考力テスト」では、昨年度より4項目で正答率を落としている。確かな思考力を養うためのより効果的な指導方法や継続的した訓練・トレーニング方法の検討が必要と思われる。	9割以上の生徒が意欲的に取り組んだ。より主体的・意欲的に取り組めるような内容や指導方法を工夫していきたい。
学校関係者の意見	・[課題発見力・論理的思考力の育成]については、評価法が妥当かどうか検討が必要だと思います。総合能力としては、向上していると思います。 ・自ら課題をみつけ解決していく事は、学習するだけではなく、社会に出てからも役立つ事だと思うので、もっと伸ばしてもらいたい。 ・普通科の生徒にも、できるだけ時間を設けてもらいたい。	
次年度へ向けての課題	探究基礎Ⅰ・Ⅱの担当5教科20名の教員に加え、高大連携による大学教官約20名、各分野における外部講師などを加えると50名以上の方々の指導を受けている実態を踏まえ、その協同指導体制が有機的なつながりの中で最大限の指導効果を出せるような工夫や取り組みがより一層必要である。また、その前提として常日頃からの全教職員の共通理解を図っていく工夫や取り組みも必要であると思われる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)